

○ 校訓について

校訓ができた経緯は不明ですが、元教官の方にお尋ねしたところ、昭和45年当時には既に校訓があったとのことでした。

従って、昭和41年の学校設立に併せて策定されたものと思われます。

一	一	一	一	一	
指揮能力の向上	団結力の養成	身心の鍛練	消防技術の練磨	消防精神のかん養	校訓

一 消防精神のかん養

「かん」は浸すという意味で、水が自然にしみ込むように少しずつ養い育てること。このような消防精神（消防に対する気持ちの持ち方）は、一朝一夕に身につくものではなく、常日頃からの地道な努力の積み重ねが必要であるということです。

一 消防技術の練磨

日頃の訓練の中で、組織の一員として行動がとれるように、任務に関する技術の向上を図るとともに、新しい消防資機材などにも習熟するよう教育訓練に励んでいこうということです。

一 身心の鍛練

消防活動には、精神力と体力が要求されますから、日頃から鍛えておくことが不可欠です。普通「身心」は「心身」と書きますが、あえて、「身」（からだ）が先に来る「身心」は、消防人の意気込みを表しています。

一 団結力の養成

消防組織は部隊を編成して行動します。各人がバラバラで行動したのでは、自分も同僚も危険にさらすことになってしまいますので、団結力は消防活動には不可欠なものです。

一 指揮能力の向上

消防活動は団体で部隊を組んで行いますので、指揮が上手く執れなければ部隊の活動が非効率になり、適切・効果的な消防活動ができません。悪い場合には事故に繋がることもあります。絶えず指揮能力の向上に努める必要があります。